

WEEKLY SIGNAL

平成27年2月13日(金) 1262号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/16(月)	2/17(火)	2/18(水)	2/19(木)	2/20(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 1,100	ト ン	ト ン	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 32,200	△ 29,000	△ 1,000	△ 12,000	△ 16,000
資金需給	不 31,100	不 29,000	不 1,000	不 14,000	不 18,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行・償還(2年)	国債発行(5年)	交付税特会借入・償還	国債発行(20年)	国庫短期証券発行・償還(1Y)
オペ期日	共通担保(全店) △ 3,400 補完供給 + 300 CP買入 △ 800 社債買入 △ 100	共通担保(全店) △ 12,700			共通担保(全店) △ 12,800
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800 国債買入 + 8,000 ETF買入 + 300	共通担保(全店) + 4,700 短国買入 + 20,000	社債買入 + 1,000		
(日本)	GDP(10-12月) 業態別の日銀当座預金残高 (日銀)	日銀金融政策決定会合 (1日目)	日銀金融政策決定会合 (2日目) 黒田日銀総裁記者会見	貿易収支(1月) 対外対内証券売買 鉄鋼生産(1月) 百貨店売上高 (全国・東京地区1月) 金融経済月報(2月、日銀)	
(海外)	米 祝日(フレイデンツデー) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ブリュッセル)	米 NY連銀製造業景況指数 (2月) 米 NAHB住宅市場指数(2月) 米 ファイデルフィア連銀総裁講演 欧 EU財務相理事会 (ブリュッセル)	米 FOMC議事録 (1月27・28日開催分) 米 MBA住宅ローン申請指数 米 住宅着工件数(1月) 米 生産者物価指数(1月) 米 鉱工業生産指数(1月) 中 春節(24日まで休場)	米 新規失業保険申請件数 米 景気先行指標総合指数 (1月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月)	欧 ユーロ圏総合PMI(2月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(2月) 欧 ユーロ圏サービス業PMI(2月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.080 ~ 0.125
SPOT 3M	0.110 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初177兆円台で始まり、週央は国債買入オペや国庫短期証券買入オペ、13日には年金定時払いを主な要因として増加基調を辿り、186兆円台で越週した。無担保コールON物は概ね0.07~0.075%のレンジで取引されたが、9日は一部金融機関による試し取りがあったことも影響し、加重平均金利が0.081%に上昇した。また13日は積み最終日にはあるものの、調達ニーズは限定的で取り急ぐ動きなどは見られなかった。ターム物は1W物0.11%台後半の出合い。13日、債券市場では新発10年物国債利回りは一時0.435%と2014年12月8日以来約2か月ぶり、新発5年債利回りは一時0.145%と2014年11月18日以来約3か月ぶりの高水準をつけた。

来週の材料としては、国内は10-12月のGDP(16日)や金融政策決定会合(17・18日)、海外は1月27・28日開催分のFOMC議事録(18日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.085 ~ 0.095
TDB 3M	▲ 0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、入札発行額は約5,500億円で、鉄鋼や電機の大型発行があったものの、期落ち額約5,800億円(金融機関・ABC除外)と同程度であった。今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台前半~0.110%台後半と、横這い~小幅上昇した。現先レートは、0.080%~0.100%程度と、ほぼ横這いで推移した。来週の期落ち額は約6,800億円となっている。

<TDB>

12日に国庫短期証券3M第512回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0020%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0004%(前回債△0.0015%)と前回債から利回りは若干上昇した。セカンダリーは3Mで0.002%近辺の出合い。6Mは△0.01%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週17日に1Y、19日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初日銀の短国・利国買入オペがオファーされたこともあり、先週末対比1.0bps程度低下の0.08~0.085%から出合からスタート。その後は概ね0.07~0.08%台前半で推移した。週末には再度短国買入オペがオファーされ、0.06~0.07%の出合をつけ越週した。SCは10年335・336回債が引き続きO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。20年151回債は週末にO/N物で△0.30%近辺の出合が見られるなど、17日の入札へ向けタイト化した。5年債は121・122回債、10年債は319・321・323・325回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。